

心療内科医で作家・ジャズシンガー海原純子による対談3回目のヒロインは、東京・渋谷のジャズクラブ「BODY&SOUL」の京子ママこと関京子氏。激流の如く時代が流れる中で、京子ママはジャズの移り変わりをつぶさに眺めてきた。2021年、コロナ禍の最中に南青山から渋谷に移転したBODY&SOUL。明るく外から見えるガラス張りの窓は、ジャズを知らない若い世代にも興味を持ってもらいたい、という強い思いから選んだ。京子ママのジャズ観に、海原純子が心を重ねる魂のジャズ・ガールズ・ストーリー。

海原純子●文 写真：平野聡

Junko Umihara Jazz Dialogues

#3「身も心もジャズ」～BODY&SOUL 京子ママ

海原純子 *Junko Umihara*

うみはら・じゅんこ 神奈川県生まれ。東京慈恵会医科大学卒業。医学博士、心療内科医、産業医として勤務する傍ら、数多くの著作を執筆、さらにジャズシンガーとしても活躍し、都内各地のジャズクラブ、イベントなどに出演し人気を博している。ジャズアルバム『ロンド』『Then&Now』が発売中。新聞・雑誌など連載も多数。近著に「こころの見方」(毎日新聞出版)「男はなぜこんなに苦しいのか」(朝日新聞出版)「幸福力・幸せを生み出す方法」(潮出版社)、「こころの深呼吸」(婦人友社)、「大人の生き方 大人の死に方」(毎日文庫)などがある。

ジャズクラブ「BODY&SOUL」と京子ママの名前は日本のジャズファンだけでなく海外ミュージシャンの間でもよく知られています。多くのミュージシャンはこの店で演奏することをどんなに夢見ていることでしょうか。はじめて出演が決まったミュージシャンがあまりの嬉しさに地方から両親や親せきを呼んでライブをしたなどという話を聞くこともあります。

京子ママの著書「身も心もジャズ」

さて京子ママの著書「身も心もジャズ」は、読みながら「え！そんなことがあったなんて」とわくわくするようなジャズがらみのエピソードが満載で、私は一度ゆっくりママのお話をお聞きしたいなあ、と思っていました。

海原純子(以下J) 京子ママ、今日はよろしくお願いたします。ご著書の「身も心もジャズ」を読んでいるとジャズの歴史を映像で見ている気分になりました。ご本はお店の40周年だった2015年の発売ですが、それ以後の10年の間にまた新しい歴史が生まれてきたと思います。今日はコロナ禍の中での渋谷移転などの経緯などもお伺いしたいと思います。コロナ禍の最中に南青山から移転(2021年)なさったのにはかなり驚きました。

京子ママ あんまり考えてるわけじゃないけど成り行きで、たまたまいいところがあったので移りました。南青山は昭和の時代は隠れ家的でよかったんです。でも平成になったら駅から徒歩10分でも遠いという感覚なんです。ちょっと雨なんか降るともう不便ということになってしまう。隠れ家的なのは時代が違うんです。表通りに出ないとだめだということで、なんとなくは探していたんですけど、たまたまこういうところが空いてるといわれて見に来てガラス張りで明るいでしょ。ジャズのイメージを変えたかったんです。若い人にもっと来てほしいと思っていて。ジャズってイメージが暗いでしょう。暗いところでじっと聞いているような。このままでいくとどうなるかという気もしていたので、コロナの最中だけど、えいやって、決めて。

有名ミュージシャンに愛される店「BODY&SOUL」

J 私は南青山のお店の雰囲気が好きだったので、渋谷に移転してどうなるのかしらと思っていたのですが、雰囲気はそっくりそのままステージにかかっているピカソ風横顔マークもそのままほっとしました。さらに広くてゆったり聴けるからリスナーにはとても居心地がいいです。

京子ママ そうなの。椅子もなにもかも全部そっくり青山から運んだの。お客さんが「おー！」って。雰囲気がそのままよかったと喜んでくださいましたね。

J 「身も心もジャズ」には素敵なエピソードがあふれていますよね。たくさんアーティストがプライベートでお店にやってきて演奏したという。六本木にお店があったころ、ピアニストのセシル・テイラーさんが山下洋輔さんと一緒にふらりとやってきて「きみのために演奏するよ」といって演奏してくれたそうですね。

関 京子 *Kyoko Seki*

せき・きょうこ 1941年東京生まれ。幼少期より踊りに興味を持ち、松竹音楽舞踊学校で学ぶ。その後、ジャズの魅力に憑りつかれ、1965年に新宿にジャズクラブ「タロー」を開店し、後に「BODY & SOUL」として六本木・南青山を経て、現在は渋谷にて営業中。55年以上ジャズクラブのオーナーとして活動し、多くのミュージシャンと交流。国内外での音楽旅行も経験。2015年に自伝的エッセイ「身も心もジャズ」を出版した。



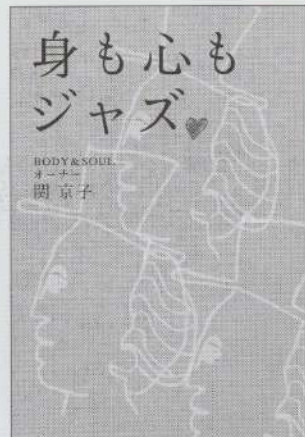
“いつ来てもいい音楽を提供できるということが大事”と語る京子氏は365日、毎日お店に出て演奏を聴いているという。そのオーナーの姿勢が名店たる所以だろう

京子ママ そうなんです。セシルさんは前衛ジャズなので何を弾いてるかさっぱりわからないの。でも途中で“I'm all for you body and soul”の一節だけ聴き取れて、それを聴いてうちのスタッフみんな泣いたの。なぜかわからないけど涙が出てきて。すごい人だと思いました…

」 スティービー・ワンダーさんもやってきたとか。

京子ママ そうなの。あの時はびっくりしましたよ。スティーブ・ガッドさんがここで演奏してたというのを聞いて自分も行きたいと言って、ガッドさんはいなかったんだけどやってきたんです。その日は本田竹広さんのトリオで本田さんはスティービーの大ファン。もうステージは終了していた時間でしたが本田さんが片付けていた楽器をセットしなおしてスティービーが当時歌っていた“You are the sunshine of my life”を演奏したんです。そしたら座って日本酒を飲んでたスティービーさんがステージに行きマイクをとり歌ってくれました。そしてそのあとはピアノで“The shadow of your smile”を弾きがたりしてくれました。忘れられない夜です。そのテーブルがあって大事にしたの。

それをかけていたらスティーブ・ガッドさんが「それはマスターを作ってテーブルは大事に保管するといよ」といったからあら、そ



「身も心もジャズ」
関京子・有賀敦 著
(ブイツーソリューション)
ライブシーンの最前線で店を切り盛りしてきたBODY&SOUL京子ママの自伝的エッセイ。国内外のミュージシャンとの交流や驚きのエピソードが満載

う、と言ってマスターを作り本物をしまったんだけど、引っ越しの時にそれが見つからないの(笑)大雑把なのよね。

」 え〜、それは、残念。あと大雪でライブが中止になったけど店だけ開けていた日の翌朝に山本剛さんが寝間着を着たままやってきたんですよ。

京子ママ そう(笑)パジャマの上にコートを着て長靴はいて。どうしたのって言ったら、「雪の様子を見に外に出たらなんか足がこっちに向いたから」といってそのままの格好でピアノを演奏していました。外は静謐な雪景色。剛さんの繊細なピアノの旋律がひろがって。以前は雪でも今のように早く帰れとか言わなかったですよ。

」 確かにそうですね。特にコロナ禍の後には行動制限はないのにとにかく早く帰るとい習慣がついた感じで出られなくなりました。

京子ママ 最近Z世代は外で飲んだりしなくなりましたね。二次会もなくなりました。うちなんかはいつふらっと来ても誰かがいいジャズを演奏してます、というコンセプトですが最近ミュージシャン目当てで予約で来るから変わりましたね。ふらっと来てちょっと聴いてみたいなくなりましたね。

」 ほんとに、それ残念です。ふらっと来て聴きたいです。そういうのがほっとできるんですけど。もう少し気楽に聴きたいですね。

京子ママ いつ来てもいい音楽を提供できるということが大事なので出演するアーティストは自分で聴いて納得できる人でないと出演させないことにしています。365日、毎日お店に出て演奏を聴いていますがアーティストも私に聴いてほしいという気持ちがあるようにたまに用事で店にいない時があると、ミュージシャンがさみしがっちゃって、どうしたのとか言われたりします。

」 ほんとにそうだと思います。ベテランのミュージシャンが、今日はママにいい音だといわれた、と喜んでたのを聞いたことがあります。ママに聴いてほしいというのがミュージシャンのモチベーションになり、それがミュージシャンを育てていくことになるんですね。

」 仕事をしていて嫌なことはないんですか？嫌な人とか…

京子ママ う〜ん、あまり嫌なこととか嫌なとかなないわねえ。常連さんはみんな仲良しで何でも話せる人たちだし、そうでない人でちょっとどうかな、という人には近づかないし。まあ、あまりいろいろ考えないしすぐ忘れるから。わりに天然だし。

」 え、そうなんですか。なんかオーラが出るから。

京子ママ みんな私をすごく頭がいい人だと思ってるらしいけどぜんぜん。

ママにとって、いいミュージシャンの基準とは

」 ところでママにとっていいミュージシャンの基準って何ですか？

京子ママ それは聴いていてピーンとくるものがあるかですね。例えばほら、女の子みたいなトランペットの子、松井秀太郎さん、いいなと思ったらすぐメジャーになりました。音がきれいかどうか、ということ。普通に楽器を演奏して大きな音が出せる人は、

繊細で小さな音も綺麗に奏でられる。

」 そうしたものはもともと持ち合わせた才能でしょうか？

京子ママ いや、それは努力だと思う。絶対努力です。自分でこうなりたいと思い努力すればなれると思う。

」 それは希望が持てますね。ミュージシャンにとって。

京子ママ 好きなこと。四六時中やってないといられない。とにかく好きで努力できるかということ。藤井聡太さんが2日間の将棋の試合を勝って終わった後、記者にこれから何をやるんですかと聞かれ、つめ将棋やろうと思う、というような。

」 それをしていないといられない、ということですよ。ただこれからのジャズ、ってどうなるのかなあとすることがあります。今の20代、30代の人と話すときジャズなんて聴いたことがないという人が多いです。

京子ママ そうね、だからたまに誰かに連れられてきて初めて聴いて、え、ジャズってこんなにいいものなの、という若者がいますね。

」 ジャズって敷居が高いと思われてますね。うかつにジャズクラブなんていけないという雰囲気があります。

京子ママ だからこれにしたのよ。ガラス張りで見えるように。あと気になるのは、昔はスイングジャズが主体でしたが今の若いミュージシャンはヨーロッパジャズのような音楽性の高い傾向が強いです。みんなが頭でっかちになってしまっ。例えば山本剛さんのようなスイングした安心して聴けるジャズを演奏しなくなってきました。ほっとして聴けるジャズを演奏できる人がなくなってきましたね。いま剛さんは中国や香港ですごい人気だそうです。

」 確かにオリジナルでフリージャズのような演奏は素晴らしいかもしれないけど、それを2ステージ聴いてたら結構疲れます(笑)。やっぱりスタンダード聴きたいです。

京子ママ いろんな店があるけどうちはそのあたりのことも考えてジャズを提供しています。

」 BODY&SOULはホームページにママのライブレポートもありメルマガでも月に2回その時々時事問題が取り上げられたり、出演ミュージシャンについてのママの視点を送られてくる



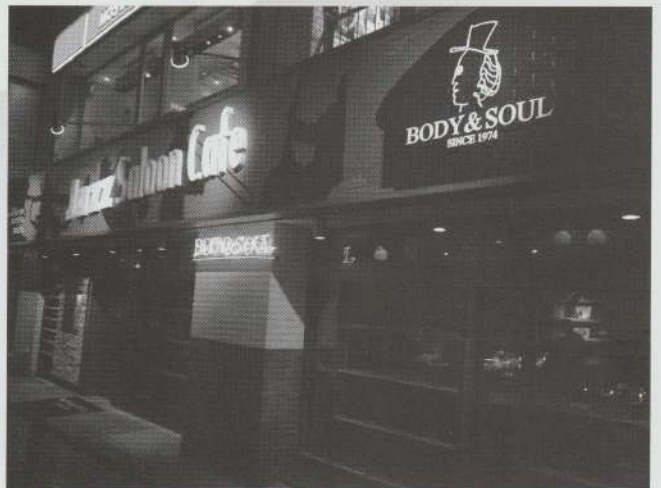
海原の言葉には、ジャズの歴史を作ってきた京子ママを敬愛する気持ちが溢れる

のですが、こういうお店はほかにないと思います。まだまだお話をお聞きしたかったのですがもうそろそろ準備の時間、今日はありがとうございました。

取材後記 ジャズの歴史を作ってきたBODY&SOULの京子ママ、多くのミュージシャンたちはママに聴いてもらうことで鍛えられて育っていったことがわかります。ジャズは市場価値としては人口が少なく決して儲かる業界ではないと思います。お店もミュージシャンも同じでしょう。今は集客を優先していろいろなジャンルの音楽を提供している店も多い現状です。そんな厳しい環境のなかでいつ行ってもいいジャズが聴ける店というアイデンティティーを持った道を歩み続けられるのは京子ママだから、という気がしました。

BODY&SOUL

〒150-0042 渋谷区宇田川町2-1 渋谷ホームズB-15
TEL. 03-6455-0088 <https://www.bodyandsoul.co.jp/>



インタビュー後のツーショット。京子ママにはしなやかで芯のある、そしてブレない姿勢で「ジャズシーンをこれからもしっかりと見守り続けて欲しい」